

株式会社プレーンの代表取締役渡辺弘明氏。リコーにはじまり、frog design、zibadesignと世界展開するデザインコンサルタント会社を経た先に辿り着いた「そぎ落とす」デザインを自ら実践する氏を紹介する。

ファンクションを活かす

「そぎ落とし」のデザイン

桑沢デザイン研究所では、ファンクションとフォルムの関係性に興味がわきインダストリアルデザイナーの道に進むことを決めました。今でこそ、プロダクトデザインという呼び名が主流ですが、私はインダストリアルデザインという言葉にこだわりを持って、名刺にもそう書き記しています。卒業後の1984年にリコーに入社してからは、事務機のデザインに携わってきました。

その5年後、昔から憧れの会社であるfrogdesignで働き始めました。シリコンバレーにあったため、主にパソコンや通信機器などのIT関連のデザインを手掛けました。そこでのクリエイティブに対するこだわりは驚きでした。まず、同じ環境で仕事をすることでデザイナーのクリエイティビティに対する負荷を

その後、飽という意味もあると知り、いらぬものをどんどんそぎ落とすことがデザインという私のポリシーも表しています。だから、無駄なものがないものこそ完璧なデザインなのです。そういった視点は、やはりfrogdesignで培われました。

シンプルへの飽くなき追求

ミニマライフを設立

JDCAの会員である島田一郎さんに代表取締役に就いていただき、2011年にミニマライフを設立しました。ここではデザイナーが中心になつて物を作っています。誰かに依頼されるのではなく、自分で作りたいものを作ろうという発想で会社を作り、企画の段階からマーケティングも含めて製品ができてからのプロモ―

和らげるといふ発想から、世界各地にあるfrogdesignの各支店のオフィスはすべて同じ物を使うという徹底ぶり。さらには提案の時には、絵ではなくモックアップでプレゼンを行い、デザインを嘘偽りのないものとしていました。

そこで私がデザインした物の中で一番印象に残っているものがオリンパス社の顕微鏡です。25年くらい前にデザインしたものが未だに売られています。しかし、レンズだけは手を付けませんでした。レンズには汎用性があるものとして他の機種でも使えるという利点があり、全く無駄がありません。私のデザインポリシーである無駄がないものに合致していました。

その後、オレゴン州にあるzibaardesignに2年間勤め、海外での生活の4年間で分かったことがあ

シヨンまで全てかわっています。

その代表作が「テープディスプレイペン」です。従来のテープディスプレイペンはすべて発想が同じでした。そして、あらゆるメーカーが商品を取り揃えています。それはまるで形を変えることがデザインという具合です。しかし、そうではなく全く新しい物を作り出すことがデザイナーの役割だと思っています。そういう発想を持つこと自体難しいことですが、デザイナーにはそれぐらいの意気込みが必要だと思っています。

そういう感覚は、私が学生時代に読んだヴィクター・パネック著の『生きのびるためのデザイン』という本に起因します。そこには「デザイナーは」世の中の環境ぶち壊すためにいる」と書かれていました。そこで、



渡辺 弘明
Hiroaki WATANABE
株式会社プレーン
代表取締役
www.plane-id.co.jp

ります。それは、どんなプロダクトのデザインであっても、基本は同じだということ。それは何が一番大事なのかを明確にすることで。すると、おのずとデザインはできると思っています。しかし、直線で済むはずのデザインに単なるフィードバックとして、不必要にアールをかけてしまう場合があります。それはもはや装飾となります。なぜここにアールをかけるのか、意味が無ければ僕はやりたくないと思っています。だから、何よりも大切なものはコンセプトです。そして、デザインの二つひとつを全て説明できることが必要です。

その帰国後の1995年に有限会社プレーンを設立しました。会社名は、そもそも飛ぶためだけにデザインされた無駄のない姿をしている飛行機を意味するPlaneに由来します。

せつかく作るのであれば、社会のためになるものを目指したいという思いが生まれ、このテープディスプレイサーでは設置面積を従来の5分の1のサイズにしました。それは売り場で今まで一つしかおけなかった場所に5つ置くことができ、運送の際にもトラック5台分が1台で済みます。そうすることでさまざまなエネルギーがセーブされていきます。そのこだわりを100パーセント表現したものを具現化すると、全ての装飾的な要素をそぎ落としたデザインになりました。

そこには美しい物を作ろうという発想ではなく、そぎ落としていった先に美しさがありました。「美しい」や「カッコいい」は主観的なものです。いくら私がこのデザインが美しいと評価しても

■わたなべ ひろあき プロフィール

株式会社プレーン 代表取締役
ミニマライフ株式会社 代表取締役

略歴

1984	桑沢デザイン研究所 リビングデザイン研究科 インダストリアルデザイン専攻卒業。 株式会社リコー入社。工業デザインセンター勤務。 情報機器のデザインに従事。
1989	frogdesign入社。情報機器、AV機器、光学機器 等のデザインに従事。
1991	frogdesign California (米国カリフォルニア州) に移籍。情報機器、文具、家電等のデザインに従事。
1993	ziba design (米国オレゴン州) 入社。情報機器、調 理器具、AV機器等のデザインに従事。
1995	帰国。有限会社プレーン設立。
1997	桑沢デザイン研究所非常勤講師。
1999	株式会社プレーン設立。 東北工業大学非常勤講師。
2007	財団法人日本デザイン振興会 グッドデザイン賞 審査委員。

株式会社プレーンは、これまでデザインを通じて、数々のメーカーの製品開発をお手伝いしてきました。デザインは決して装飾ではなく、不必要な要素を極力削ぎ落とし作られるものです。また、その製品には企業の理念が表現されていなければなりません。株式会社プレーンは、依頼主の理念を形にし、さらに磨き上げることに主眼をおいて活動しています。

プレーンな発想で挑むシンプルデザイン 固定観念を覆しつつけるインダストリアルデザイナー

全ての人が美しいとは思いません。それがアートであれば成立しますが、デザインに携わる以上、美しさの前に使えないければ意味がありません。最初から「美しい」とか「カッコいい」物を作ろうとするなど、社員にもよく言い聞かせています。

用途への追求が 行為をデザインする

プレーンで手掛けた商品としてステークナイフ「アシンメトリーSK01」があります。これは私の地元の高級生である有限会社龍泉刃物の代表増谷浩司氏からの依頼でした。その依頼とは世界的に最も権威のあるポール・ボキューズ・ドールというフレンチの世界大会に日本代表として出場が決定しているシェフ浜田統之さんからステークナイフのオーダーを受けたというものでした。

浜田シェフから与えられた条件としては、ナイフを軽く引いただけで切れなければならぬということでした。さらに皿を傷つけず、審査員がソースを舐めた際に舌を切らないなど制約もありました。まずはステークナイフの用途について考えました。マナー上、ステークナイフは必ず右手で持ちます。そこで右手で持ちやすい

ことを第一に考えました。しかし、必ず右手で持つということは、ソースを舐める面も決まっています。そこで、片刃にすることで舌を切つてしまうという課題をクリアしました。一方で、片刃による切れ味の低下を補うために刃の両面には200ミクロンの凹凸をつけ、よく切れるように工夫しています。なおかつ、右手で力が伝わりやすくなる理想的な形を追求していき、左右非対称で断面が三角形になるようにし、軽量化を図るために中は空洞になるように設計しました。「マナーをデザインする」を帰結した形になったと思っています。

迎えたポール・ボキューズ・ドールのコンテストの時には、多くの審査員がこのステークナイフを持ち帰っていました。コンテストの結果も見事に浜田さんは日本人で初めて3位に入賞し、それが話題となってステークナイフもマスコミで取り上げられるようになりました。機能性にこだわりの抜いた結果、高い技術を要し、高価な商品となってしまったにもかかわらず、購入するのに1年間待ちという状態です。第2弾として、同様の切れ味を確保しながらも、製作期間が短期間な「ネイチャーSK03」を発

表しました。

また岩谷産業株式会社の依頼を受け、カセットコンロのデザインも担当しました。カセットコンロの目的は調理することです。その役割は加熱することになります。そこで、できる限り火が綺麗に見えるように工夫しました。そのコンセプトは、火をより美しく見せるというものです。ここでも意味の無いデザインを極力そぎ落としていき、完成したものが「アモルフオプレミアム」というカセットコンロです。

このように私の基本的なデザインポリシーは、どの商品であっても変わることはありません。そして、本当に重要なことは何であるかを考え抜いていき、そのほかの部分をそぎ落としていく。そういう行為がデザインだと思っています。そのためにも本当に当たり前だと思っていることですら、疑ってかからなければなりません。そういう視点でものづくりに携わることとはとてもストイックなことなのかも知れません。しかし、少なくともデザイナーの仕事は自然環境に負荷をかけていると自覚している以上は、それぐらいの覚悟をもってデザイン活動にかかわっていかねばならないと考えています。



1

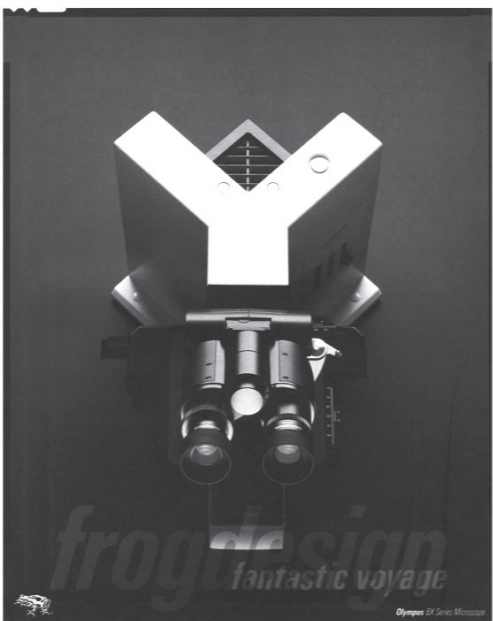


2

- 1 ミニマライフ テープディスペンサー eN
リールを使わずシンプルでコンパクトなテープディスペンサー。
- 2 Iwatani カセットコンロ アモルフォ プレミアム
高級感と使い勝手の良さに食卓を彩るカセットコンロのフラッグシップ。
- 3 龍泉刃物ステークナイフ アシンメトリー
伝統工芸の技により、ポール・ボキューズ・ドールで世界大会で審査員を唸らせたステークナイフ。
- 4 オリンパス 顕微鏡 BXシリーズ
20年以上作り続けられるロングライフ製品。世界中の研究機関や医療機関で愛用されている。



3



4